

北海道命名150年目を記念した北海道開発局の取組

～150年間積み上げてきたインフラが、暮らし・経済・安全を支えています～

北海道開発局 開発監理部 開発調整課



今年、2018年（平成30年）は、かつて「蝦夷地」と呼ばれていた北海道が、明治2年に松浦武四郎によって「北加伊道」を含む6つの名前が提案され、それをもとに「北海道」と命名されてから150年目に当たります。

この記念すべき年に、北海道庁が中心となり、道民・企業団体などが一体となって、これまでの歴史や先人の偉業を振り返り、感謝し、次の50年に向けた未来の北海道づくりに継承していくための様々なイベントや取組が行われています。

北海道開発局においても、北海道命名150年目を機に、北海道の暮らし、経済、安全を支えてきた「インフラ」が、どのような役割を果たし、どのような効果をもたらしてきたかを、普段インフラを意識する機会の少ない方々に発信し、より身近なものとして感じていただけるよう、様々な取組を行っています。

本稿では、北海道開発局が進めているこれらの「北海道命名150年目を記念したインフラPRの取組」の中から、幾つか紹介します。

■ 取組事例1 北海道のインフラ整備の歴史とたどるツアーの実施

北海道開発局では、各種事業や整備してきた各種施設の役割等についてより多くの方々に知っていただき、さらに、インフラを地域の観光資源として活用することで、地域の活性化に資することを目的として、ダムや橋などのインフラの見学を旅行会社が企画するツアーに取り入れてもらう「公共施設見学ツアー」という取組を行ってきました。

北海道命名150年目の今年、この公共施設見学ツアーをベースにして、「歴史」や「食」といった要素を加え、ツアー全体に「ストーリー性（テーマ）」を持たせ、北海道開発局以外の関係機関とも連携することで、より幅広い内容とした「インフラ歴史ツアー」を実施しています。

インフラ歴史ツアーは、施設の見学、インフラの整備の背景や歴史、効果等の解説はもとより、「食」、「体験」を通じてその効果を実感できるツアーとなっています。

平成28年3月に閣議決定された北海道総合開発計画では、世界の北海道を目指すにあたり、そのための戦略的産業として「食」と「観光」が位置づけられています。これら北海道の「食」と「観光」はこれまでのインフラの積み上げにより発展してきたと言えます。

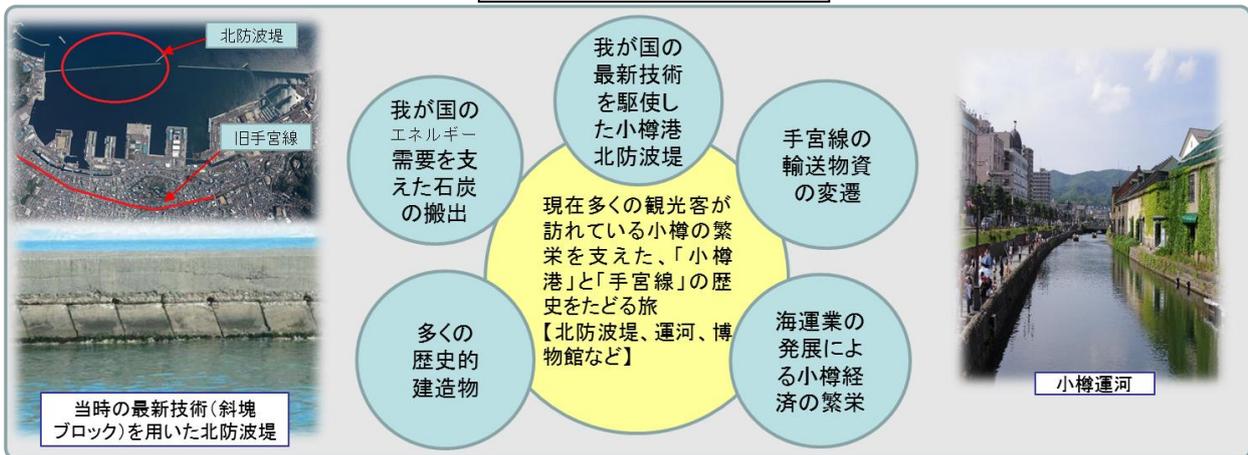
このツアーを通じて、これまでも北海道を支え、これからも発展させていく「インフラ」を是非身近に感じていただければと考えています。

●インフラ歴史ツアー第1弾 五感で感じよう！小樽の歴史

・テーマ：北海道の経済を支えた「小樽港」と鉄道「手宮線」の歴史をたどる

本ツアーでは、我が国のエネルギー需要を支えるための幌内炭鉱からの石炭の運搬から始まった鉄道の歴史と、当時世界最新の技術で整備された小樽港北防波堤に代表される小樽港の歴史を学び、その後の海運業の発展がもたらした小樽の繁栄などを実感できる内容としています。

小樽編ツアーイメージ



ツアー募集パンフレット

- ・ 出発日 6/24 (日)、7/21 (土)、8/25 (土) 3日間
- ・ 行程：
 - ①小樽市総合博物館本館（手宮線の歴史解説）
 - ②小樽市総合博物館運河館（小樽産業発展の歴史解説）
 - ③旧手宮線跡地遊歩道（解説付きで散策）
 - ④日本銀行旧小樽支店金融資料館（金融業発展の歴史解説）
 - ⑤斜路式ケーソン製作ヤード（土木学会推奨土木遺産見学）
 - ⑥みなとの資料コーナー（小樽港建設の歴史資料など見学）
 - ⑦小樽港海上見学（北防波堤斜塊ブロックを間近で見学）
- ・ 定員：20名



●インフラ歴史ツアー第二弾 五感で感じよう！篠津泥炭地開発と石狩川治水の歴史

・テーマ：『国家的一大プロジェクト「篠津泥炭地開発」と石狩川治水の歴史』

篠津地域は、泥炭地の開発や石狩川の治水事業により、安心して生活し、農業ができるようになり、今では、全国で有数の美味しいお米や野菜が穫れるようになりました。

本ツアーでは、この地域が肥沃な農業地帯となった開発の歴史や成り立ちについて学び、農家の方々から米作りについて直接お話を聞いて、そこで穫れた美味しいお米を食べることで、インフラ整備の効果を実感できるものとしています。

篠津泥炭地開発と石狩川治水の歴史編イメージ

「ゆめびりか」や「ななつぼし」に代表される美味しいお米

安心した暮らしや農業の実現

石狩川の治水対策の歴史

「篠津泥炭地開発」と「石狩川の治水」の歴史をたどる旅【運河、頭首工、資料館、新水路など】

「泥炭」との戦い

農地の排水や客土による土地改良

取水施設(頭首工)

長大用水路

石狩川のショートカットによる水位低下

泥炭地開発の様子

北海道命名150周年記念インフラ歴史ツアー第二弾!

国家的一大プロジェクト「篠津泥炭地開発」と石狩川治水の歴史

出発日 7/28(土)・8/18(土) 9/1(土) 各出発日20名限定!

5,580円

ツアー募集パンフレット

http://www.cb-tours.com

- ・ 出発日 7/28(土)、8/18(土)、9/1(土) 3日間
- ・ 行程：
 - ①篠津泥炭地資料館(泥炭地農地開発の歴史解説)
 - ②農場見学(地元農家さんのお話とお米試食)
 - ③篠津運河(見学)
 - ④石狩川頭首工(役割の解説・頭首工上部から見学)
 - ⑤月形樺戸博物館(監獄開拓の歴史解説)
 - ⑥江別河川防災ステーション(石狩川の治水と歴史解説)
 - ⑦石狩川船上見学
 - ⑧幌向地区自然再生地(実際の泥炭地を見学)
- ・ 定員：20名

●インフラ歴史ツアー第三弾以降は、道央エリア以外で企画検討中です。

■ 取組事例2 カルチャーセンターが行う講座への協力

一般の方々を対象として、様々な講座を多数開催している大手カルチャーセンターである(株)道新文化センターでは、北海道命名150年目を記念して、「北海道を支えた土木インフラ事業の150年〈道、港、川そして農地〉」と銘打った4回シリーズの講座を開催しています。この講座は、これまでの北海道の歴史の中で幾多の困難に見舞われながらも進められてきた、治水、道路、港湾、土地改良の各分野の事業やそれらに携わってきた技術者のエピソードなど興味深い話題で構成されています。

北海道開発局は、北海道命名150年目を記念したインフラPRのとても良い機会として、この講座の開催に当たり、講師の紹介や資料の提供等の協力を行っています。

○講座概要



札幌大通 教室

道新文化センター

先行受付中!

ここに道があるのは当たり前じゃないんだ

北海道を支えた土木インフラ事業の150年
(道、港、川そして農地)

北海道と命名されて150年の間に港、道、川、農地などがどう整備され、私たちの暮らしを支えてきたのか、歴史をたどりながら考えます。大学や研究機関などで実践的研究をし、また第一線でインフラ事業に携わってきたプロフェッショナルからお話をうかがいます。

【日 時】土曜/13:00~15:00(全4回)
【受講料】各2,160円(入会金不要) 【4回セット】 8,208円 一括払いで5%OFF

【協 力】国土交通省北海道開発局
※定員/各30名(開講最少人数10名)
※各開講日の2日前締切
※WEBでカリキュラムの詳細をご確認いただけます。

6/9(土) 河川氾濫とダム・治水
講師 鈴木英一 伊藤組土建(株)副社長、博士(工学)

6/30(土) 延びてつなぐ人と道
講師 山口匠人 (一社)北海道開発技術センター 上席研究員、博士(工学)

7/28(土) 道が拓いた北海道
講師 関口信一郎 日本データーサービス(株)顧問、博士(工学)

8/25(土) 豊かな大地を拓く土地改良
講師 梅田安治 北海道大学名誉教授、農学博士

新聞折り込み広告

● “そこに道があるのは当たり前じゃないんだ”

北海道を支えた土木インフラ事業の150年
〈道、港、川そして農地〉

- ・そこに道があることも、田んぼに水が満ちおいしいお米が育つことも、いつでも豊富に水が飲めることも“当たり前”と思う私たちですが、その当たり前には歴史があり、人々の努力と英知の結晶でもあります。道、港、治水、農業土木などを切り口に、北海道の150年を考えます。
- ・大学や研究機関などで実践的研究をし、また第一線でインフラ事業に携わってきたプロフェッショナルからお話を聞きます。

○第1回 6/9(土) 河川氾濫とダム・治水

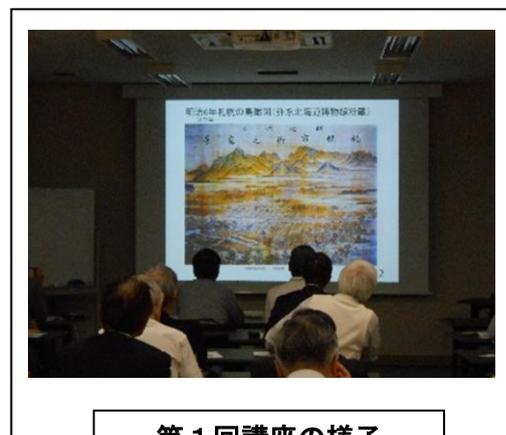
講 師 鈴木英一 伊藤組土建(株)副社長、博士(工学)

参加者 28名

時 間 120分

冒頭は明治期の北海道の開拓と洪水について、年表や当時の地図により詳しく説明。当時の鳥瞰図と現在の空撮がほとんど同じであるなど、興味深い話しがありました。また、明治31年の大洪水の様子や、石狩川の直線化など治水の歴史について話しがありました。

最後に近年の大雨災害について解説があり、あっという間の120分でした。



第1回講座の様子

○第2回 6/30(土) 延びてつなぐ人と道

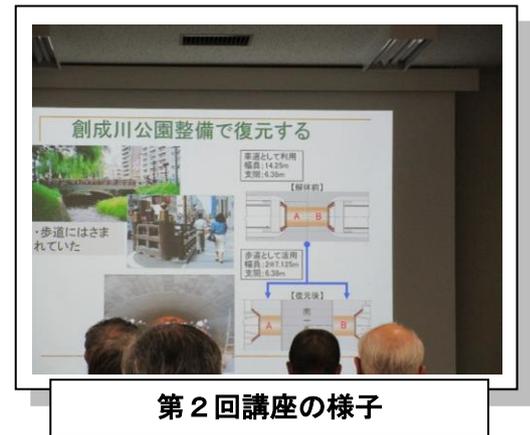
講師 原口征人 (一社) 北海道開発技術センター
上席研究員、博士 (工学)

参加者 24名

時間 120分

前半は、明治維新直後に札幌と函館を結ぶために開削された2つの道、本願寺道路と札幌本道や、囚人の使役と犠牲で開削された中央道路(上川道路・北見道路)などの歴史について説明がありました。

後半は、戦後の時代に入り、弾丸道路(札幌一千歳道路)の寒冷地における道路技術の開発について紹介がありました。北海道庁前広場に、舗装の下層に現存する木塊舗装の説明、創成川公園整備における土木遺産、創成橋の保存改修など、どれも、道路の歴史に関する興味深い話題であり、この講座でしか聞けない内容が盛りだくさんでした。



第2回講座の様子

○今後の予定(港、農業の分野についての講座)

・第3回 7/28(土) 港が拓いた北海道

講師 関口信一郎 日本データサービス(株)顧問、博士(工学)

・第4回 8/25(土) 静かな大地を開く、土地改良

講師 梅田安治 北海道大学名誉教授、農学博士

■ 取組事例3 平成30年度土木学会全国大会との連携

今年8月29日(水)~31日(金)に、北海道大学を中心に開催される、平成30年度土木学会全国大会と連携して、見学会や札幌駅前通地下広場(チ・カ・ホ)で行われるパネル展を通じて北海道におけるこれまでの150年間のインフラ整備の歴史を紹介します。また、29日(水)の「ベスト・イノベーター・オブ土木偉人」や30日(木)に、かでの2・7で行われる全体討論会においても150年間のインフラ整備に関する発表が予定されています。

平成30年度
土木学会全国大会 見学会
in Hokkaido

参加者募集

I. 半日コース ~かつて、最新技術を駆使して石炭を運び、我が国を支えた日本海沿岸の地。その地で、最新の交通インフラとエネルギーインフラを巡る~

申込み期限8/16

後志自動車道 余市IC~小樽JCT間新設工事
石狩湾新港(火力発電所)
石狩湾新港(LNG基地)

日時: 8月29日(水)12:45集合 13:00出発(北海道大学(工学部前))
~17:30解散(北海道大学(工学部前))

見学先: ①余市IC~小樽JCT間新設工事~②石狩湾新港(火力発電所、LNG基地)

参加費: 2,000円(保険・税込み)

定員: 40名

コース概要:
日本海沿岸は、かつて空知の炭鉱から小樽までの列車が走り、小樽港から石炭が積み出され、これらのインフラが、北海道の経済と我が国のエネルギーを支えてきました。
本ツアーでは、これまで北海道の物流とエネルギーを支えてきたインフラが立地した北海道日本海沿岸において、最新の交通インフラ(高規格道路)とエネルギーインフラ(LNG火力発電所)を見学します。

II. 1日コース ~生命の維持に不可欠な水を人々に届けるインフラ、産業と暮らしを支えるインフラ、そして、土木技術の昔と今を知る~

申込み期限8/16

豊平川水道水源水質保全事業
王子製紙千歳第1発電所
苫小牧港(西港区)

日時: 8月31日(金)8:15集合 8:30出発(北海道大学(工学部前))
~17:30解散(北海道大学(工学部前))

見学先: ①豊平川水道水源水質保全事業~②王子製紙千歳第1発電所~③苫小牧港(西港区)
~④国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所研究施設

参加費: 2,500円(保険・税込み) 昼食代含まず) 3,500円から2,500円に値下げしました。
20名様限定の希少な見学会です。この機会に是非ご参加ください!

定員: 20名

コース概要:
【前半】水は、人の生命の維持は言うまでもなく、エネルギー(電力)の生産にも活用されています。本ツアーの前半で、飲料水を供給するための最新の土木技術と、発電のための歴史的土木技術を見学します。
【後半】製紙業は、長きに亘り、北海道の産業の発展と我が国の紙の自給を支えてきています。大規模な製紙業では、豊富な水、電力、そして、原料の輸入や製品の移出のための物流拠点(港湾)が必要です。本ツアーの後半では、前半で見学した発電施設に引き続き、製紙業等の産業に不可欠な物流拠点である港湾を見学します。
ツアーの締めくくりには、北海道の150年を支えてきた土木技術を常に最先端で研究してきた研究所の施設を見学します。

平成30年度土木学会全国大会 見学会チラシ

■最後に

これまで、先人の努力によって積み上げられ、今も北海道の暮らし、経済、安全を支えているインフラが、普段土木との関わりが少ない方々にとっても、より身近なものになるよう、これからも継続的に取り組んでいきます。